

琉球大学学術リポジトリ

1. 環境を素材とする市民性教育のあり方

メタデータ	言語: 出版者: 島袋純 公開日: 2012-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 芳春 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/25056

I. 環境を素材とする市民性教育のあり方

宇栄城小学校校長 横山芳春

横山：定義・概念の学習の後に、NPO をつくろうというワークショップをやっていて、その中で、それぞれ自分達が考えている課題を出してもらって同じような課題の人達がグループをつくって、その課題を解決するための NPO をつくろうといったワークショップをしていました。理念をつくって、現状把握をして、未来予測をして、解決のための方策をつくりあげてきました。一回一回、発表してもらって最終的にまとめて発表という講座を開いていました。講座は 80 名ぐらい参加されていたので、1人でワークショップをみるというのは、大変なことだったですね。通常 40 名で手一杯のところ 80 名だったので、大変でした。でも、非常に学生達がおもしろかったですね。3年間のうち一番印象に残ったのは、ここにはお一人そういう雰囲気の方いますけど、けっこうやんちゃな兄ちゃん達が 7、8、名いました。彼らにワークショップができるかと思ったら非常におもしろいんですね。どんなワークショップを彼らはテーマに選んだかという、ドラッグレビューです。ドラッグで苦しんでいる若い人達を助けるための NPO というものをつくって、実際友人にもそれで困っている人がいると。この人達みかけによらずものすごくまじめで、非常にいいワークショップをして発表もおもしろかったですね。あの意外なところを、ワークショップで学生達の中に見つけたわけです。自分達が自ら学ぶ方法というのは、今日やるような講義、話ばかり聞く方法に併せて、ワークショップをやろうというような、とてもいい授業スタイルと思います。今日は、私のほうで宇栄原小学校の環境学習についてその概要をご紹介しますと思います。

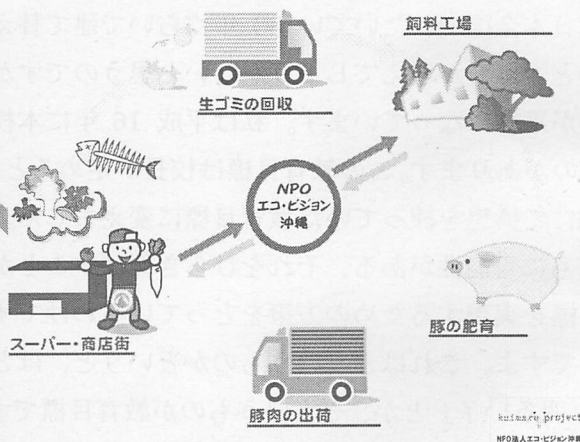
～パワーポイントの準備～

宇栄原小学校は、沖縄県が施政権の返還をした復帰の年 1972 年 10 月に設立されています。那覇市の南のはずれの方にある学校です。現在は、児童数が 560 人前後、職員が 35 名前後います。建て替えが 5 年ほど前にありまして、新しい校舎になっています。余談ですが、公共施設というのは日本全国で、たいてい 30 年ぐらいで建て替えです。もっと長く使えるような建物をつくらないと、ゴミが増えてしょうがないと思うのですが、公共施設は今のところ 30 年で建て替えるのが平均になっています。私は平成 16 年に本校に赴任しました。全ての学校には教育目標というのがあります。この教育目標は校長が定めるということになっておりまして、私は来た早々、半年かけて構想を練っていた教育目標に変えました。「1000 の子どもに 1000 の可能性、すべての子どもに可能性がある、それをひらき伸ばすことが教育である」という理念をつくって、この教育目標を実現するための方策をとっているわけです。みなさんも小学校の時に教育目標ってあったんですよ。これはどういうものかという、ほとんどが「元気な子」とか、「たくましい子」とか、「明るい子」とか、そういうものが教育目標です。かなりの教育目標を調べましたけどだいたい同じようなもので、これはちょっといかなんと思っただけで教育目標を変えた次第です。そういった教育目標を実現するために、3つの柱をつくりました。なんといっても授業が学校は中心ですから、授業を中心に据えた学校づくりをおこなう。2番目に環境学習。3番目に安全・安心な学校をつくっていく。今日は、この中の環境学習・環境教育についてお話をします。

なぜ環境教育を小学校でやろうと考えたかといいますと、環境問題は今世紀最大の課題で、子

ども達の問題でもあります。子ども達が環境破壊をしている面もありますし、また今後予測される被害を受けるのは子ども達でもあります。環境問題の実践を通して子ども達の社会性を育てたいと思いました。責任ある市民として成長してほしい、というのが校長の願いであります。平成16年、最初に取り組んだのが「くいまーるプロジェクト」というものであります。これはNPOの沖縄リサイクル運動市民の会のみなさんが、何年か前から手掛けていたプロジェクトです。古我知さんという方が代表ですが、実は私は那覇市役所のゼロエミッション推進室室長をしておりました。その時に、20年来の友人の古我知さんが来て、豚の飼育のプロジェクトを考えていると。金が要るので農林水産省外郭団体の助成金を取りたいと、200万くらい取りたいと。これは、東京である審査会に行き面接を受けないといけなくて、一緒に行ってくれということになったんですね。この豚は、昔やっていたような方法で育てるわけですが、食べ残し、残飯を利用して豚を育てると。資源を循環させていくというプロジェクトでありましたので、那覇市としても、そういったゴミ減量にもつながる話ですので、室長として、本課の仕事でもあるので出張として行きましょう、ということで行きました。面接を受けて、見事パスして200万を取ることができて、このプロジェクトが始まりました。その後、沖縄県やいろんな所からかなりの助成金、補助金を得て、このプロジェクトを継続してきました。仕組みは、スーパーとか学校の食べ残し、売れ残り、賞味期限の食べ物、こういったものを回収してそれに熱を加えて餌をつくります。熱を加えて餌をつくって、それに時々穀物等を加えて、混合飼料等も加えながら豚を飼育して出荷する。これは、こっちは写真でわかりますように非常に低密度で豚を飼育しています。オガコを敷き詰めて非常に清潔な豚舎をつくっているわけです。このことによって豚の病気を防いで、不必要な抗生物質、抗生剤等を打たなくていいようにしている。このような形で安全な豚の飼育も試

くいまーるプロジェクト

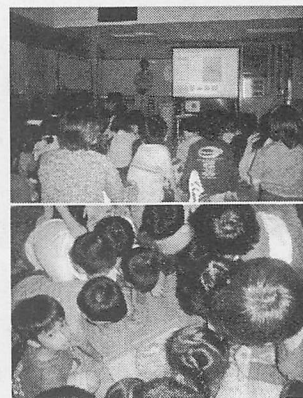


学校の社会参加
食の安全

みているわけです。こちらは、本校にもってきてくれた給食の食べ残しをこの中に入れて回収する容器です。デザインは、子ども達が喜ぶようにとハムの形をしてここが豚のしっぽです。こういったデザインをしてもってきてくれました。本校も、この輪の中に入って食べ残しを回収してもらって、「くいまーるプロジェクト」に一年目は参加していきました。飼育された豚を一匹くれるということで喜んでもらったら、油を抜いても4、50kgあります。相当な量でどうしたらいいかなということで、小緑給食センターにお願いして給食として出してもらいました。焼きソバの肉として出していただきました。近隣の2つの小学校含めて本校含めて3校で、この焼きソバを出してくれました。この子はサッカー部の子で4、5回おかわりをしていました。おいしいと言っていました。このプロジェクトは、子ども達に何をやっているか、というのを理解してもらわないと意味がないのでNPOの人に来てもらって、子ども達が1年生から6年生全員集まって、なぜこういうことをしているのか、という説明会を開いています。食べ物をゴミとして出すのではなく、とにかく残さないように食べて、それでも残ったものは回収して豚さんにあげましょうと。豚も安全な飼育方法でいいお肉をつくれます、という説明をしました。2年生の男の子がすぐ手を挙げて質問をしました。「この豚さんを食べるんですか」と聞いたんですね。NPOの人はなんて答えたかという、「食べます。私達はこういった命を頂いて生きているのです。おいしく食べて生きています」という説明していました。こういった環境教育を通して、大げさに言えば命の教育にもつながっているのかなど、その時子どもの質問を通して思いました。3年生以上は総合的な学習の時間がありますので、この総合的な学習の時間を利用して環境教育をやっているわけですが、1、2年生の先生から、1、2年生も何かやってほしいということでこれ急遽実施しました。友人が、有機無農薬の農業をやっておりますがその人に来てもらって、農業の話をしてもらいました。無農薬でやっているのと虫がたくさん来るんですね。その虫の話を1、2年生にやってくれました。いい虫、それから悪い虫の話を、併せてやってくれました。その中から自然の法則・原理みたいなものを少しでも子ども達が学べることができるといいな、という主旨でやりました。これは、虫の話をしている所です。畑にやってくる虫のスライドで見せながらお話をしてくれました。これは、今収穫時期になっているキャベツですが、無農薬でやっているの青虫がいっぱいついています。私が子どもの頃キャベツ畑っていったら、モンシロチョウが無数に飛んでいるような所でしたが、今は農薬使うので蝶々は全然飛んでいません。でも、ここの農業は、虫だらけです。虫がたくさんついたものを持ってきて子ども達に見せておりました。こういった農業をしている宮本さんという人です。

1.2年生

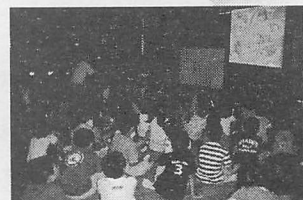
- おみん農園
(有機無農薬農家)の支援
- 自然の法則を学ぶ
- 落ち葉で土づくり



3年生

身近な自然を学ぶ

- 安謝川・漫湖見学
- 水鳥湿地センター
- 海の汚れ
- あやちゃんの夢
- クリーンアップ作戦



3年生は、1年目から2年目にかけては「沖縄海と渚保全会」の協力を得て授業をしていました。テーマは、身近な自然を学ぶということです。安謝川や漫湖を見学したり、近くの水鳥湿地センターに行って学習をしたり、それから海のゴミですね、こういったことをNPOの方からスライドを通して教えてもらったり、それから「あやちゃんの夢」というパソコンでつくった紙芝居をNPOの人達がプログラムとして持っていて。魚達が人間の出したゴミをたくさん食べて病気になります。病気になって、たこちゅう先生というお医者さんの所に行って治してもらうという話です。人間の出したゴミが、海に辿りついていかに海の生き物がそれを食べて病気になっているかという劇であります。こういったことを、NPOの人達がプログラム化して環境教育に役立てているわけです。実施方法も非常におもしろいです。子ども達と環境を学びながらその保護者も、学んでいただくということで。この子の親達、お母さん達が、スクリーンの裏に隠れて、たこちゅう先生やラブチャーおじさんとか、お母さん達がセリフを吹替えてやっています。そうしながら一緒に子ども達と環境を学ぶという関係をつくっているわけです。3年生をみてくれている団体は「沖縄海と渚保全会」です。この団体は非常に優れていて環境大臣賞も受賞しております。同じく3年生ですが、こういった海のゴミの勉強をした後に、近くに瀬長島がありますので車で行って、ゴミを保護者の人達と一緒に、拾う学習をしています。実際どんなゴミがあるか、子ども達がよく理解できるようになっています。参加した90名ぐらいの保護者のみなさんです。このあたりに、見つけたゴミを置いています。これは平成17年度から始めた3年生の環境教育の一つですが、干潟観察会をやっております。那覇空港の横にある大嶺干潟ですね。非常に大きい干潟ですが、こちらに行って、干潟の生き物を調べているところです。鹿谷さんが案内をしてくれています。1クラスに1人説明者がつくようにしています。鹿谷さん夫妻と藤井さんという理学博士の人も手伝ってくれて、干潟観察会をしているところです。干潟観察会を通して子ども達その後調べ学習をして、発表会をしていました。その1つだけを紹介します。

「ナマコは何をしているのか」というテーマを3年生のあるグループが調べ学習をしていました。非常におもしろかったです。プレゼンテーションを見ていると、ベビーバスを持ってきて、この中に30kgの砂を入れてきて、みなさん「これは何か分かりますか」と問いかけるわけですね。そうすると、私も分かりませんでしたけど、ナマコ1匹が1年間に30kgの砂をキレイにしているというのをつきとめたんですね。汚れた有機物のついた砂を口から入れて、浄化して出す。これを1年繰り返して30kgの砂をキレイにしているということを、発表していました。このような、体験学習から調べ学習にいったととてもおもしろいというプレゼンテーションにつながっていったわけです。それから同じく3年生ですが、学校の裏が、旧海軍壕公園になっていて、ちょっとした林になっているので、そこに昆虫類を取りに行つてまた調べ学習につなげていく、こういったことをやっています。近くの海、それから林・森に行つて、いろんなことをやっています。これは、自由研究としてこういう昆虫類を調べた発表をしているところです。虫のことをさらに聞こうということで、藤井先生に来てもらって、虫に関する質問を子ども達がしているところです。学習を通して自然に興味・関心をもてたということです。45分の休憩時間は毎日のように虫探しをする子がいるとか、疑問を継続し調べているがまだ解決できない子どもがいるとか、親子でみんみんで仕事をしている藤井さんのもとを尋ねていろいろ聞いたとか、インターネットや図書館で調べ物をしたとか、こういった子ども達が出てきています。

次は4年生です。4年生は、身近なゴミの学習をしています。協力してくれている団体は、エコビジョン沖縄リサイクル運動市民の会のみなさんです。買い物ゲーム、けっこう有名なプログラムですが、買い物ゲームをしてきています。このプログラムの非常に優れているところは、NPOの人達が直接子ども達に買い物ゲームを実施するというのではなく、まずNPOの人達が保護者と教師にワークショップを実施します。目的は、保護者と教師が買い物ゲームをできるようにして、インストラクター



4年生 「買い物ゲーム」

- 保護者の学習参加
- 学校のゴミしらべ
- 家庭のゴミしらべ



となるように、プログラム化されているわけです。そういったことって非常に重要ですね。保護者や教師が買い物ゲームができるようになれば、環境教育が進んでいくわけですからそれをねらっています。これは、NPOの鹿谷さんが来て買い物ゲームを進めているところです。これは実際に子ども達に買い物ゲームをしているところです。この2人は保護者の方々です。買い物ゲームを実践しているところです。後ろにいるのがNPOの代表の古我知さんですが、ここでは、NPOの人はあくまでも後方支援です。子ども達に授業をしている時は、NPOの人達は前面に出ないです。後方で保護者や教師をバックアップしている、こういう関係をつくっています。これは、買い物ゲームの実際をやっているところですが、いくらで買ったか安く買ったかどうかを調べているところです。安く買ったところはゴミもたくさん買って、ゴミ処理を加えると非常に高くなるという仕組みになっています。買い物ゲームの得点表を出しているところです。ここにいるのは、このクラスの担任で、これは保護者です。その後、ゴミ処理の費用はどんなところでお金を要するのかというのを、4年1組の担任の先生が、説明しているところです。教師が説明しているところです。これは4年2組の担任の先生です。子ども達から、ゴミを減らすにはどうしたらいいかというワークショップをしながら出てきたものを、分類し説明をしているところです。教師がやっています。レジでビニール袋を断るとか、ゴミが出ないものを買うとか、ここに出ている白い紙は子ども達がワークショップで出てきたものです。それを、分類しているところです。こういったことをやって子ども達の意識がどうなってきたかですが、年間のゴミの量にビックリしたとか、工夫するとゴミが減らせることが分かったとか、これからマイバッグを使うとか、洗剤やシャンプー等詰め替え用を買うとか、ラップは塩ビをやめてポリエチレンにするとか、安さに騙されてゴミが出ない買い物をするとか、4年生がこういうことを言っています。4年生の今後の課題として、買い物ゲームで学んだゴミ減量を実践していくことです。後で説明しますが6年生は学校版ISOというのをやっていますので、このへんとの連携が必要だろうと。現在は全校の給食で出てくる牛乳パックを回収して資源ゴミとして業者に売っていますがこういった取り組みとか、地域のゴミはどうするかとか、こういったことを考え出しているところです。

5年生は、アースの会がバックアップしてくれています。こちらは、食卓から環境を考える、食から地球環境を考える、こういったテーマで環境教育をしています。3年生は身近な自然、4年生は身近なゴミ、5年生は範囲を広げて地球環境の問題を学ぶ。地球環境の問題を学ぶという非常に抽象的になりがちなので、どのようにして子ども達に身近なものにしていくか、ということ食で食べ物を利用してしているわけです。食を通して地球環境を学ぶ、こういったことをやってい

ます。アースの会のみなさんは、リサイクルプラザの広報担当をやっていますのであちらに行って、学習をしたり、なぜ環境学習が必要かというようなことを学んだり、ゴミ問題を寸劇で学んだり、生ゴミ処理、こういったことも学習をしています。食料の自給率と輸入についてというようなプログラムもあって、子ども達が NPO の人達と学びあっているところです。これは、スーパーマーケット等のチラシがよく入りますね。あそこに食料、食べ物を見ると生産国が書いています。

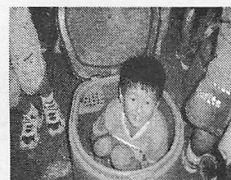
例えば魚だったらカナダとか、エビだったらベトナムとか、肉ならオーストラリアといろいろな生産国が書いているわけですが、そういったものを子ども達が切り取って、模造紙の書いた世界地図に貼っていくわけです。その後、魚チーム、肉チーム、穀物チームと分けておきます。そして例えば肉はどっから来ているんだろう、穀物はどっから来ているのだろうかというのをつくっていくわけです。いかに自分達が食べている食べ物が、外国から来ているかというのが分かるようになっていくわけです。この外国から食料を輸入しているのは世界一だということを知識として NPO のみなさんは後になって教えますけども。輸入することによってどんな問題が起きているのかとか、これは防虫処理で農薬を使ってその残留の問題であるとか、それから大量の食べ物を輸入するのでエネルギーが要るわけで、化石燃料を使って運ぶわけですから大量の化石燃料を消費している。その結果、それが地球温暖化にむすびついていると。また私が考えるにはこれだけ食べ物をこう持ち込んで、物質は不滅ですから地球内に留まりますので、外から入ってきたものが、何らかの形を変えて、沖縄や日本の中に留まるわけですね。要するに栄養価が非常に高くなるわけです。そこで農業をしてないのだからそれを誰が吸い取るかという問題になるわけです。大きな問題が今後出てくると思いますが、こういった食料の自給率、輸入についてフードマイレージの勉強を5年生はやっています。これは調べたものを発表しているところです。

500 人の宇宙船というのを年間の授業の最初の方でやっています。これは私のほうでワークショップファシリテーターをやっています。これはですね、スウェーデンの NPO にナチュラルステップという大きな団体があります。スウェーデンの4団体の1つが開発したプログラムで宇宙船に500人の人間が乗り込んで、地球を2000年間回ります。2000年後にだいたい500人で地球に戻ってくる。戻ってくるには何を積み込んでいけばいいか、というワークショップです。大人のワークショップとして開発されました。那覇市で私がゼロエミッション担当の頃、このワークショップをナチュラルステップの人に来てもらって実施して、だいたい20名から25名のインストラクターを育てて、その20から25名が、今那覇市で全職員に環境のワークショップを3000名ぐらいの対象に体験してもらおうということで、5年ぐらい前から始めました。かなりの職員が、環境に関するワークショップを、丸1日か2日くらいやっているはずで、全員が受けるような仕組みをつくりました。そのプログラムの1つで、「500人の宇宙船」というプログラムは私実際にストックホルムに行って、代表者からいろんなことを聞いてきました。子ども用に組み換えができないかなと思って数年間やっていますが、本校でもやっています。最終的には、宇宙船そのものが実は地球だということが分かるようになります。子どもも、8グループぐらいつくと1グループか2グループは、これは地球だと最終的に言い出すグループが出てきます。その

5年生

「食卓から環境を考える」

- リサイクルプラザ
- なぜ環境学習
- ゴミ問題(寸劇)
- 生ゴミ処理(寸劇)
- 命の授業(獣医長嶺さん)



ようなワークショップです。これは発表しているところですね。アースの会は、海水を使ったゆし豆腐づくりというのをやっています。大豆は、地産・地消の学びということで伊平屋産のものを使っています。おそらく無農薬だと思います。海水は、北部、中部、波之上のもの3種類もってきます。そしてどれを使うという提示をして、一番キレイに見えるものを使うということです。自分達の住んでいる那覇市の水、海水は海水浴客の油が浮いているので、使えない。海はキレイだと思っていたけれども実際は、それほどでもないというのも分かるようになっていきます。こういった豆腐づくりで、大豆の自給率とか、海水の問題とか、伝統的な食の作り方とか、こういったことが学べるようになっていきます。それから沖縄そばづくりもやっています。小麦粉を使って、沖縄の伝統的な作り方で沖縄そばづくりも子ども達がやっています。子ども達が沖縄産の小麦粉を使ってそばをつくっています。校長室に持ってきてくれました、とてもおいしかったです。これはそばづくりをやっている時に材料を出して、食料の自給率をグラフで説明しているところです。こちらのビンに入っているものは、灰汁です。ガジュマルか何かの木を焼いた灰をろ過したのを使ってコシの強い沖縄そばをつくらうということでした。エコクッキングというのも5年生でやっています。これは、私達調理するのはガスとかそれから電気ですね、こういったものを使ってるわけですがこれらは化石燃料なんですね、いずれなくなるもの。沖縄だと電気は石炭で起こすのが多いですけども、石炭は二百数十年でなくなると、石油はあと40年ぐらいでこのまま使えばなくなるだろうと。そういった化石燃料は、炭素が固まったものですから燃やせば、電気をつくれます。その分二酸化炭素が出てくるわけですね。調理をするたびに二酸化炭素が出てくる。これは、いた仕方がないところがありますけども。かたや自然エネルギーでも調理ができるということを簡単な方法で分からせるようにしています。これはパラボラアンテナみたいなもので、熱を反射して一点に集めて、そこの黒い調理器具に熱を集中させてご飯を炊いたり、ゆで卵をつくったりポップコーンをつくったりシチューをつくったりしています。何もこれを、各家庭に広げようということではないですよ。エネルギーにはいろいろなものがあって、自然エネルギー、未来永劫あるエネルギー、なくならないエネルギーもあるということをつかせるようとしているわけです。これは太陽の熱で、他には太陽光があったり、風力があったり、この波は波力があったり、地熱があったりするわけです。地球は、あと58年存続すると言われていいますので、そういった持続可能なエネルギーは何かという学びを、しているわけです。これは、子ども達が家庭から生ゴミを持参してコンポストに入れて、堆肥をつくっていました。3、4ヶ月間、寝かせて堆肥をつくってその堆肥で学級菜園でにんじんやじゃがいも等いろんな野菜をつくってそれを収穫して、最初の方に出てきたくいまー豚も少しもらって調理をしているところです。エコクッキングの一環ということで、これはヒラヤーチーですが緑色は、にんじんの葉っぱです。これはじゃがいもですね。私達教職員も、このワークショップやりましたが、じゃがいもの洗い方も水を流しっぱなしにせず、ボールに水を受けて洗うと、水の消費を少なくする。それから皮は薄くむいて短冊状に切って炒めてビールのつまみにするとか、極力ゴミの出ない調理をエコクッキングで学んでいるところです。ある保護者、お母さんから聞きましたけど、これをしてから料理している時、子どもがじゃがいもの皮をむいていたら怒られたと。ものすごく分厚くむいて捨てようとしていたら、「お母さんそれはダメです」と言われたそうです。子どもは、環境教育を受けだしてから家で口うるさい、手厳しいということです。買い物に行く時はエコバッグ持ったとか、いろいろ言うそうです。5年生のほうの成果は、食を通して自給率の問題や輸入問題・地

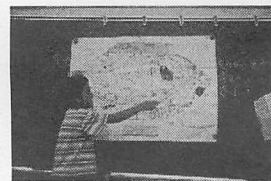
球温暖化の問題に気づくことができた。課題、自分達にできることはないか学校や家庭・地域で実践していくための工夫が必要である。かなり子ども達は家庭でもやりだしています。保護者のみなさんが、アンケートを昨年度10月と3月に取ってくれましたが、環境実践が家庭でかなり高く、数値で行われているというのができています。いずれ発表したいと思っています。

6年生は、学校版 ISO14001 を構築しようということで、沖縄大学と地球温暖化防止活動支援センターのみなさんの協力を得て、ISOに取り組んでいます。最初の導入あたりで、環境ジャーナリストの寺田麗子さんに講演をしてもらったり、私がワークショップをしたり、やっていました。寺田麗子さんは、本校の学校評議委員になってもらっています。ISOというのは、学校の環境をどうしていくという宣言をして、その宣言を実現するために計画をつくります。そして計画を実行して、後で評価をしてまた再計画をして実践していく。こういうスパイラル上に環境を良くしていくプログラムですが、これを学校でやろうということです。子ども達が1年目の9月に、「紙の再利用をしてゴミの減量をします。水の無駄使いを減らし、水を節約します」という宣言をしました。島袋先生に今日のデータはペーパーにプリントアウトしたものとパソコンの中にデータ残していきますので、必要な方は先生にご相談下さい。「電気の無駄づかいをなくし節電を心がけます。枯葉を利用して肥料をつくり学校を緑いっぱいにします。地球に優しい環境づくりを6年生全員で行っていきたいです」という宣言もしています。これに基づいて、子ども達がいろんな計画をつくります。例えば、紙ですと両面使って、その後、この紙で窓を拭いて、それを資源ゴミにして出す。こういうようなことを子どもが計画するわけです。それから歯磨きをする時は、水は出しっぱなしにしない、コップに水を溜めておいてそれで洗う。無駄な電気は消す。本当に当たり前のことですが、そういうことを徹底していこうという計画です。実践をしているところです。節水・節電・ゴミ削減・植物の4グループに分かれて活動しているところです。これは、トイレの清掃はホースで水を流しっぱなしにしてやるのではなくて、ジョウロに溜めてやる。子ども達はおもしろいので、ベランダに雨水を溜めて、溜まったらそれを使う。本校は320tの雨水を溜めるようになっているのですが、そういったものも実際は使えるわけです。これはプリントで窓拭きをやっているところです。そういった実践を何ヶ月かやって、ISOの仕組みの非常に重要なものですが、外部審査というものを受けます。学校版ISOですから正規のISOではないです。ISOは那覇市も何年前に取得しましたが、コンサルティングを受けて、例えばコンサルタント料800万円ぐらい払って、受験するときはまた何百万円払うんですね。本部はスイスにあるNPOが取り仕切っているのですが、それを学校でできるようなものにつくりかえているわけです。どこかが、いいですよという認証をしなければいけないわけですね。自分達の学校でやって自分達で認証するっていったらこれ変ですね、イカサマですね。外部の人に認証してもらって、そういう制度があるわけで本校の取り組みと同時並行して、那覇市教育委員会が学校版ISO認証の制度をつくってくれました。そこで、外部審査会というのを開いて、那覇市環境部主幹、沖縄大学の職員、環境政策課、那覇市の課長、那覇市教育委員会環境担当の先生、この人達を招いて発表会をしてこの人達が質問をして、審

6年生

「小学校版ISO14001」

- ◆ 寺田麗子さん講演
- ◆ 校長WS
- ◆ 環境側面・目標
- ◆ エコプログラム



査会に代えているわけです。無事パスをして特別認証学校版 ISO ということで教育長から認証を平成 17 年 3 月に受けたということです。平成 18 年度、前年度ですね、これを学校全体に広げようとなりました。16、17 年度は、6 年生だけでやっていました。6 年生が計画をつくって 6 年生だけで実行していたわけです。3 年目になってこれを全校に広げようということで 6 年生が、何をやるか 1 年生から 5 年生全員に説明をしているところです。私のほうで ISO とは何かというのを説明も併せてしました。全校でああいう説明をしながら、これは兄弟学級といいますが 6 年 1 組の子ども達が、5 年 1 組、4 年 1 組、3 年 1 組、2 年 1 組、1 年 1 組 こういう兄弟学級に入って、さらに説明をしているところです。そして去年の 9 月から、牛乳パックを資源化する取り組みも始めました。実は那覇市はこれまで業者が、このパックを回収してくれていたのですが、給食費が一部削減されて、業者がもっていかれなくなったわけです。那覇市のほうは、現在学校のこういうパックは、ゴミとして出すようになっていきます。焼却するんですね。これは大変な量が出てくるわけです。本校でも 550 個ぐらい毎日出ているわけです。これがゴミとして燃やされると。ゴミ減量の計画をかなり那覇市はやっていますが、学校からは実はこういうゴミがどんどん出ていくわけです。そこで全校に呼びかけて、簡単に洗って乾かしてこういうふう解体しているところです。1 年生の朝の活動ですが、1 年生でも充分こういうことができるわけです。毎朝、楽しみながらやっている活動です。ある程度集まったら業者に来てもらって売っています。子ども達が、



- 子どもたちがつくる
ISO エコチャレンジ宣言
1. 紙の再利用をして、ゴミの減量をします
 2. 水のむだづかいを減らし、水を節約します
 3. 電気のむだづかいを無くし、節電を心がけます
 4. 枯葉を利用して、肥料をつくり、学校をみどりいっぱいにします
- ※地球に優しい環境づくりを、六年全員で行っていきましょう

6 学年が取り組む キッズ版 ISO14002						
エコチャレンジ項目	目 標	プ ロ グ ラ ム				
		何を	方法	いつ	だれが	
ゴミの問題	○紙の再利用	・あまったプリントを全部再利用できるようにする。	・いらないプリントの裏をメモや計算用紙に使う。 ・両面が使われているプリントは、窓ふきにする。 (週一回計測し、燃やすゴミとして捨てる) (プリント類→メモ・計算用紙→窓ふき→燃やすゴミ)	再利用後の計測	必要な時 掃除時間や 朝の活動時間	全 員
	○ゴミの量	・ゴミの減量をする。	・ゴミの分別をする(燃やすゴミと燃やさないゴミ) ・一週間のゴミの重さを各クラスで計り、記録を取る。 (再利用できる紙と再利用した後の紙の量も計る) ・紙の無駄づかいしないようにポスターを作ったり、呼びかけたりする。	計測 燃やすゴミ 燃やさないゴミ ポスター	毎 日 毎週金曜日 9月10日まで	全 員 ゴミグループ ゴミグループ
電気の節約	○節電	・使われていない電気を見つけたら消す。 ・節電の呼びかけ	・電気のつけっぱなしがあれば、消す。 (各クラスで、消した人を調べる。チェック表を作る) ・節電を呼びかけるポスターを作る	チェック表 拳手 ポスター	毎 日 9月10日まで 毎 月	気づいた人 電気グループ 電気グループ
	○学校の電気使用料金を調べる	・毎月電気に使っている料金を調べて、毎月みんなに伝えて、節電を心がけてもらう。	・学校の電気料を節電パネルから調べる (各クラスで、分担して記録を取り、学年集会で発表)	節電掲示 パネルから		
水無駄づかい	○水の無駄づかいを無くす	・ポスターづくり	・節水を呼びかけるポスターを作る。	ポスター	9月10日まで 完成させる 2学期から	水グループ 全 員
		・歯みがきの時、コップを使う ・トイレ掃除では、あまり水を使わない ・雨水をバケツにためて、いろいろなものに使う。	・歯みがき粉を使わない。 ・水を出しっぱなしにしないで、コップを使う ・トイレ掃除は、ジョウロで流す。洗剤使用は週一回 ・雨水で花壇に水をかける。 ・雨水でぞうきんや筆を洗う。	チェック表 拳手 チェック表 チェック表	清掃時間 雨水をためた後	トイレ掃除当番 水グループ 全 員
植物を育てる	○枯葉を肥料にする	・肥料をたくさん作る	・4年生と協力して、枯葉や雑草を集める。		朝の活動時間 清掃時間	植物グループ 植物グループ
	○苗を作る	・ポスターを作る ・計画を立てて、実行する	・ポスターを作り、呼びかける ・計画表を立てて、実行する	ポスター 計画表	2学期初め	植物グループ
	○花を育てる	・6年生の花壇を緑いっぱいにする	・雑草を取る ・新しく苗を植える ・毎日水をかける(雨水利用) ・枯葉で作った肥料をあげる	チェック表	2学期の中頃	植物グループ

「地球温暖化を防ぐために誰でもできること、それは今私達がやっていること。学校でも家でも節電・節水と生ゴミの堆肥化をやっています。身近にできることをコツコツやっていくことで環境にいいことができるだけでなく、みんなとの協力も分かち合えることを学んだ」といった感想が出ているわけです。ISOの成果ですね。「電気をこまめに消すようになった」「歯磨きにコップの使用で節水」「牛乳パックを資源化するようになった」「紙の両面使用と資源化」。また、「保護者に影響しだした」これは、また別の時間にご紹介できればと思っています。「他校に影響した」これは、近隣の豊見城市の長嶺中学校が平成17年度から学校版ISOを1年生で取り組みだして、あちらも豊見城市の教育委員会を動かして制度をつくってもらって17年度に認証を受けています。本校の具体的なISOの成果ですが地球温暖化防止活動支援センターが、データを出してくれました。平成15、16、17年度の11月から1月の3ヶ月間と、平成18年度11月から1月3ヶ月間を比較してくれました。電気では12%節電、水道では44%節水、この2つ二酸化炭素に換算すると4.9t削減していると。費用でなんと120万を節約をしているということです。学校、小・中・高で、那覇市五十数校小・中・高ありますが、11年間で光熱水費は、6億5000万くらいかかっています。私がやっている実感では、1割、10%は、軽く水道・電気を落とせると思っています。本校でもこのくらい落としています。いってみれば野放し状態、電気はつけっぱなし、人がいないのにトイレも電気がついている。水もけっこう流しっぱなし。漏水も多い。少しやれば、10%落ちると思っています。そうすると、1年間で税金が6500万円落とせるのです。大きいですよ6500万、少しやれば。これを、また別の時間に長田さんがレクチャーされると思いますが、フィフティ・フィフティ制度を彼はすすめています。半分は行政の中に入る、半分は学校に分配する。そうすると、学校だいたい5、60万ぐらいのお金が入るんです。非常に助かる。子ども達それから教職員が、この環境活動の担い手だと思います。進めたほうがいいと思っるところで訴えています、なかなか進まないところです。

課題は今後例えば10%とか15%とか目標値をつくって、それを達成するようにしていく。本校のPTA作業で草刈り作業をしてくれませんが平成16年度から、こういった草刈り作業で出てきた草や枝などをゴミとして外に出さない。校内で堆肥にするということをして、いい堆肥ができていますが、なかなか使われていない。使うように循環をしていきたいです。成果はいろいろあります。せつかくこのように環境教育を進めているので修学旅行もエコ修学旅行ができないかなということで平成17年度から、自然の中で遊べるような修学旅行にしています。読谷に行って、NPOの人達がプログラムをつくっているコースがあります。刺し網コース、シュノーケリングコース、それから一年前は乗馬コースがあります、馬の手入れと乗馬コース、工芸コース、それから、Tシャツを草木で染める草木染めコースの5つのグループに分かれて、希望のところ、自然体験をしようという修学旅行です。私はこの刺し網コースに同行しました。やはり一番人気はこの刺し網コースで都屋漁港から船で出て前日の夜仕掛けていた刺し網を子ども達と一緒に、引き上げました。子ども達最初は、おっかなびっくりだったのでしたが、途中から、「ヨイショ、ヨイショ」といってかけ声をかけながら、網を引き上げていました。クーラーボックスいっぱい魚を取ってきて、港に戻って、ここで子ども達がウロコを取って内臓を取り出してさばいているところです。魚汁にしたり、焼き魚にしたり、バター焼き、それから刺身にしたり、自分達でやっているところです。ほとんどの子どもが初めて触る。この子の親達もやったことがないようなことですが、子ども達が自分達で取ったものを、さばいている。ある子どもは、刺身

嫌いだったんでしょうね、初めてここで食べておいしかったという子もいました。子ども達がこういうエコ修学旅行に参加しているわけです。これは、エネルギーの勉強になるなと思って、石窯をつくりました。実は私エコクラブっていうのを地元で前やっていて、ある所から助成金をもらって、耐火・耐熱レンガを400個ぐらい買って、東風平でこういう窯をつくったら、半分くらい耐火レンガ・耐熱レンガが余って、学校に寄付をして保護者の皆さんと一緒に、ピザ窯をつくりました。去年の7月に完成して、宇栄原っ子祭りというPTA祭りですがピザを焼いて、熱々のピザをふるまっていました。いらなくなったプリントを皿代わりにして使っています。隣の旧海軍壕公園が、公園の管理で時々木を伐採するので、公園の管理者のところに行って、伐採された木を環境教育に使いたいので、下さいと言いました。公園側は、ゴミとして出しているの、処理ができるからあちらも嬉しいわけです。本校はこれを薪にしてピザを焼く。薪は、計画的に植林をしていけば持続可能なエネルギーであるというようなことをテーマに、授業を、このピザ窯を使ってやっているわけです。

もう一度学校版ISOに戻りますが、どういった展望をもっているかということ、子ども達が環境教育によって環境のリトルティーチャーとして成長しているわけです。家庭に帰ると、保護者に対していろんなことを、環境的なことを言うわけですね。ある時期、節電・節水というシールがたくさんあったので子ども達に配りました。どうなったかと思ったら、ある日PTA会長が、環境教育はかなり浸透していると、何故かということ自分がある日家に帰ったら、いたる所に節電マークがある。蛍光灯のこのヒモにも節電マークがあって、消さなかったら怒られると、かなりの効果があるよと言っていました。家庭で、子ども達は徐々に変えていっているわけです。家庭が変わるといことは地域が変わるといことでもあります。子どもが変わると家庭が変わり、地域が変わるといことが起きてきているわけです。また、那覇市教育委員会がISOの制度をつくりましたので、これは何も宇栄原小だけのためにつくっているわけじゃありませんので、他の学校にも波及・普及していく可能性があるということです。他の学校に波及していけば、また子どもが地域を変えていくということが起こってくると思っているわけです。そういったことを通して、学校が環境活動の拠点になっているといったことになればいいなと思っています。

少し早足でPTAの話をしてします。平成16年環境教育を始めて、すぐにPTAが変わりだしました。PTAアースの会というのができて、環境活動を始めています。すぐに、NPOのアースのみなさんのもとを訪ねて、環境にいいことを聞いてきてPTAのみなさんがポスターをつくって、貼ってくれました。PTA祭り・宇栄原っ子祭りも、ゴミを出さないPTA祭りをやろうということでエコフレンド号、食器を積み込んで、食器洗浄器・乾燥機を積み込んだものを借りてきて、ゴミの出ないPTA祭りをPTAのみなさんがやっているところです。これまでのPTA草刈り作業では、ものすごい量の使い捨てビニール袋を使っていました。100枚以上使うわけですが。ある時、PTAのみなさんがこういった使いまわしの布袋をつくってきてくれました。これで運ぶと、ゴミとして袋を捨てなくていいわけですね。こういったことによって、ゴミ減量もはかかっていく。これもPTAの自主的な活動です。

先ほどの3年から6年のものをまとめていうと、3年生は自然を好きになる、身近な自然の学習。3年生でもってこれは遅いぐらいですが、本当に健全な自然で遊んでいる子どもとか、良く知っている子どもでないと、環境が徐々に悪くなっていることっていうのは気づきにくいと思うんですね。自然を好きで良く知っている子は、環境が悪くなれば環境をよくする活動に向かうの

ではないかと思っています。自然を好きになる、身近な自然をテーマにしています。4年生も身近なゴミ問題の学習をしている。5年生で、対象を大きくして地球環境の学習をしている。6年生になってもう一度、足元に戻って学校の環境を良くしていこうということになっています。もし、たくさんの小さな子ども達が、たくさんの小さな村で、たくさんの小さなことをしたら世界はきっと変わるだろうといったことを考えながら環境学習をしています。今日は一番長いお話をしたところですが、あと2つありますのでそっこのほうにうつっていきたいと思います。

前年度から学校版 ISO を全校に広めていく、そのための説明会を6年生がやっていました。その時に王朝は、仕組みはどうなっているかっていうことを、1年生から6年生までに説明をした時の資料です。もったいない運動学校版 ISO14001、学校全員で学校の環境を良くしていくことです。もったいない運動の仕組みは「計画、何をするか考え決める」「やってみる」「できたか調べる」「計画をつくり直す」こういったようにグルグルグルグル回りながら、環境を良くしていくことです。大きなめあてを決める。地球に優しい環境づくりを6年生全員で行っていきます。「何をするか考え決める」これは6年生が、いろんな方のアドバイスを受けながら、何をやるのか考え決めていっているところです。ゴミを減らす1つとして牛乳パックをリサイクルする。ティッシュを使わないでハンカチや雑巾を使う。紙は裏まで使う。窓拭きで使う。リサイクルに出す。エコマークのノートを使う。水道の蛇口をしっかり閉める。雑巾は洗う。トイレの掃除をする。これは雨水を使う。歯磨きの時はコップを使う。授業中のトイレの電気は消す。人のいない教室の電気は消す。必要のない電気はこまめに消す。やってみて、できたかどうかを調べて見直しをする。そして6年生は5年生にバトンタッチをしていく。できなかったことをどうすればできるようになるか考える。こういった説明をしたわけです。子ども達に望むこととして学校の環境を良くしていく、家の環境も良くしていく、中学生になっても中学校の環境を良くしていく、こういったことを望んでいますという説明をしました。

「市民性を育てるという大きなテーマがある講座でありますので、私も最終的にはですね、市民性を育むような教育をしていきたいと考えております。環境教育を現在やりながら、社会性や市民性が少しでも育てばと考えていますが、本校の環境教育は、やりながらどうすればいいか考えていく。また全国的に見ても、全学で環境教育に取り組んでいるというのはめったにないです。ある助成金を受けて東京に行って、ある発表を聞きましたが、だいたいよくて1学年全体でやっているか、ほとんどは1クラスで取り組んでいるというのが多いです。全学で取り組んでいるところっていうのは非常に少ないです。しかし、小規模校・僻地校、例えば10人ぐらいしか全校生徒がいなくて前例がないわけです。自分で考えてやるしかないような状況で進めていますので、市民性教育がどうできているか等は、まだまだ検証に入っていない段階です。目指すところはどういうところかということで、スウェーデンの市民を育てる教育がモデルになるのかなと思って、少しお話をします。スウェーデンの中学教科書に「あなた自身の社会」というのがありますが、市民を育てる教育を中学校でやっています。内容は、「法律と権利を理解する」「あなたと他人との関係」「あなた自身の経済」です。お金をどのように使うかという話、それからコミュニケーション、地方自治体の話ですね、那覇市とか宜野湾市の話です。それから私達の社会保障はどうなっているのか、こういったことを学ぶ教科があります。この「あなた自身の社会」という教科書は日本でも翻訳されて出版されています。スウェーデンの文部省は何をいつているかという、

1994年の学習指導要領で、「学校の任務は生徒に将来を気づくという困難な事業への楽観的な展望を与えること」っていつているんですね。あなた達は社会を良くしていくことができる、そういった楽観的な希望を持たせるのが教育ですよということをいつているわけです。今年の3月にデンマークから公立学校の校長と大学の先生が来て、私も呼ばれて一緒にシンポジウムやったのですがその時発表しているのを聞いていると、デンマークの教育基本法に、市民性を育てることが教育の目的だという主旨のことが書かれています。教育基本法の第一条に明確に書かれています。市民性という話が出ています。日本は、なかなか法律では市民という言葉は出てこないです。実はNPO法をつくる時も、市民活動促進法とか、市民活動とか、市民という言葉は最初入っていたわけですがいろんな横やりがあって、市民活動とか、市民という言葉は削除されて、特定非営利団体とか、こういうものになっています。なかなか日本では、市民というのが法律には登場してこないというような現象があるわけですが、デンマークではきちんと位置づけられています。スウェーデンの中学教科書「あなた自身の社会」の中でどういったことを学んでいくか…

～ テープが裏面へ～

…困難な状況があればそれを克服していくということを経験書とかなんとかでいろんな事例を通してながら学習できるようになっています。自分自身の意見を持つ、社会は自分達の手で変革できるということを学べるようになっています。これを見てみると、それぞれいろんなテーマがあって子ども達が議論をするようになっています。それぞれが自分の考えを出しあって、議論をする。もちろんどれが正しいとかいうようなことを決めるためではないです。自分の意見を出して、意見を言い合うという場をつくっているわけです。いろんなテーマについて、さっき何項目かに出てきた「法律と権利」とか、「私たちの社会保障」とか。この中でキーワードとなる言葉を挙げて、それについて自分の意見をつくり意見交換をする。それをずっと積み重ねていく、こういったことを授業でやっているわけです。この教科書の中に「私達は自分で思っているより能力がある」という項目があるんですね。この絵がおもしろくて、一番この辺にいるのが何をやりたいか思いつかない、私にはやれないということを知っている者とかですね。それからちょっと上にいくと、練習を始めよう、そうすればできるようになる。足をくじきそうだ、ここにはロープウェイはない。よし、もう少しだ。これは女の子がやることではない、やり遂げるぞ。みんなにちゃんと見せてやる。目標に到達した。こういった図を示しながら、勇気を与えるような教育をしているということですね。自治体のコミュニンの中の項目の1つですが、例えば宜野湾市であれば収入がいくらあって支出はこういうふうになっていますよというのを中学校の段階から学習するようになっています。このようなスウェーデンには市民性を育てる教育が中学校で行われている。とても素晴らしいと思って、その例を出したわけでありませう。本校では、環境教育を



しながら少しでも市民性が育っていくことができればと思っているわけです。スウェーデンでは市民性を育てる教育そのものが行われているということです。ちなみに、スウェーデンもそうだったと思いますがイギリスでは、市民を育てる教育と環境教育は、法律でやらなければいけないと定められています。それも、クロスカリキュラムとって国語や算数や理科、社会その中に、環境とか市民性を育てるっていうのを織り込んでいくように定められているんですね。スウェーデンも環境教育は法律で定められています。したがって教職課程にある人は、環境教育の講座を受けて単位を取つとかなないと、受験資格がなくなるようになっていきます。日本ではまだそこまでいってないのですが、そういうような仕組みをつくっているわけでありまして。また、環境教育を広めていくには、それぐらいしないと日本では広まらないなと思います。環境に興味のある先生方が、ぽつぽつどっかでやっているという段階は、今後とも続いていくんじゃないかなと思っています。私の話は以上です。ありがとうございました。

島袋：どうもありがとうございました。お話を伺って、いろんなことが分かったかと思います。特に宇栄原小学校の特徴は1年生から始まっていることは知らなかったのですが、3年生から6年生までかなりの時間数を割いて、しかも学年毎に到達する教育目標っていうのが明白にされている。それを積み上げていって、最終的には本当に実践する能力を身につけるということです。それで私のほうは、実をいうと政治学が専門で、市民性をどう身につけるかっていうことで、スウェーデンの本は分からなかったのですが、副読本をつくっています。それでできれば、先ほど環境と市民性とか、お互いにいろんな教科でクロスしていくっていうことがあったのですが、あいつた形で、環境と市民性そのものがクロスできないかっていうことを今イメージしている状況です。そういったこともありまして今回環境教育学を、環境を素材とする市民性教育と捉えなおして、この授業を構築している状況です。それで、今紹介にありました NPO の方々が順番にここで授業します。次回はワークショップですが、その次は3年生の担当の NPO の方と一緒に先ほどの海に行きます。来週ではなく、その次ですよ。その次っていうことはゴールデンウィークがあるので5月19日になります。その後またワークショップをします。ワークショップとこういった座学を繰り返して、最終的に横山さんに来てもらいます。もう一度横山さんに来ていただいて何をお話してもらおうかという、今日は学校の中のお話を中心でしたが、地域はどう変わったか、父兄はどう変わったか、地域がどう変わったか、そこの部分を中心に、話をさせていただきたいと思っています。特に、私もこのPTAのアースの会の存在は分からなかったのですが、地域社会がこれで確実に変わったら、そして那覇市全域にこれが広がったら、沖縄自身も変わるんじゃないかと。沖縄県は変わるんじゃないかと。あるいはこれで地球を救えるんじゃないかなと、本気で思ってこういうことをやっているわけです。そういった将来的には、一步一步の積み重ねで、どうにか地球を救えないかと思っています。特にこの授業を先ほど那覇市全体でISOを全ての学校でできるようにもっていきたいというお話があったのですが、今日いただいたいろんな資料も使って、それからテープ起こしもして、それで授業を報告書にしたいと思っています。報告書にすることによって、それを見て他の学校、例えば首里中学校でもいいし、城西小学校でもいいですし、城北小学校でもいいですけど、他の地域、遠い所の地域の学校の方々を、特に先生方あるいはPTAの方々が読んだら、うちの学校でもこれできるんじゃないか、このプログラムをやっていく本質は何なのか、問題点は何なのか、こういうことを分析して、そしてそれを報告

書にして、いろんなところに配布することによって、普及に貢献したいという思いです。そういったことでこの授業を報告書にしたいとも思っています。恐らくみなさんにとっても、この授業はワークショップをかなり入れますので、ワークショップのファシリテーションって何なのか、ということも学んでいただきたいと思います。ファシリテーションって言葉が何回かでしたが、話し合いを活性化して知恵と知恵を出し合って協力しあって学びあう場をつくる力ですね。こういったことが本当にみなさんについているのかっていうことを意識しながら、授業の組み立てをしていきたいというふうにも思っています。盛りだくさんでいろいろあるのですが、初めての授業ではあるのですがそれなりにいろいろ準備してきました、そして組み立てています。初めてのことで準備したことが上手いかわからない、空回りすることがあるかもしれませんが、そのところは勇み足だと思って、我慢していただきたいなと思います。いろんな問題点、分からないことがあったらどんどん聞いていただきたいと思います。そして、もう一度言いますが、感想をメールで送って下さいね。感想を必ず送って下さい、自己評価して下さい。本当にちょっとでいいです。PCでアクセスできない人は携帯メールでもいいですので、必ず関心がどこにあるのか、どういう点に気づきがあったのかということを知りたいので、必ずメール送って下さいね。

ちょっと中断してしまいましたが、横山さんに質問があったら手を挙げて下さい。3人くらいの方から質問を受けたいと思います。

学生A：すごく感動したのですが、これをやっていくってというのはかなり大変だと思いました。いろんなNPOにコンタクトを取って、どういうふうにしていくかっていうのを説明して、計画をして、どういうふうにしていくかっていう細かいこともふまえた上で子ども達に、ああいう形で授業をしていくために、準備段階にどれぐらいかかったのかとか、どういう経緯でこういうふうなNPOとどういうふうにつないでくかっていうのをお聞きしたいのでお願いします。NPOの方々とは自分は、あんまり接点がないので。

学生B：自分も時間についてちょっと聞きたいのですが、準備ではなくて、実際子ども達が授業の時間帯でどのぐらいの時間を割いて、今ぐらいの活動を行っているのか。

学生C：1年生から6年生までこの学年ではこれをやって、6年生終わるまでちゃんと系統だっで進んでいくのですが、そういうのは校長先生がコーディネート、考えたり、プランを作ったりとかしているのかなと思いました。

島袋：基本的な構成に関して、横山先生お願いします。

横山：まず、私元々環境にとっても昔から興味があって。あなた達が生まれてきたかどうかは知りませんが、久茂地川フェスティバルというのがあって、私は一回目の事務局長をやったんですよ。その頃からようするに関係があるわけです。たくさん、今でいえばNPOの人達が8団体ぐらい一緒になってやりました。その祭りをずっと10年間続けたわけです。そういった昔からの関係があったということ。先ほど先生のお話にありましたが、NPO支援センターをつくったわけですが、その時から元々環境系の方は良く知っていました。つくった前後から、いろんなジ

ヤンルの人達と知り合えたわけですね。福祉とか、教育とか、いろんな市民活動をやっている人達と知り合えて、いろんなネットワークがあったわけですね。希望して学校に行くことになって、環境教育をしたいと思ったわけで、そういう環境関係のかなり精力的にやっている人達に声を掛けて、本校でやってほしいと。今あなた達も持っているプログラムを学校でやってくればいいと。あるいは温めているようなものがあればやってくればいいと。だいたいその来てもらおうとしている団体のやっていることを私は分かりますので、3年・4年・5年・6年のどのへんに入ってもらえばいいなというイメージできるわけですね。NPOの人達もだいたいこの学年をしたいというのがありますから、それと合わせて学年を決める。1年目はまずそういう形でやったわけです。2年目は、やはりやってきたものを見て、系統だったものにしていこうということで、さっき説明したようなものにこう組み替えてきたわけです。だから5年生と最初に思っていた人が4年に入ったとか、4年のNPOが5年に入ったとか、入れ替えなんかも次の年に出てきたわけです。コーディネートは私が全部やっています。さっきの話にありましたが系統だったものというのは、ずっとNPOの人や先生達の意見を聞きながら、私がコーディネートしながらつくっていったものです。なにが大変かといえばNPOの人達は、NPOというのは非営利で社会貢献活動をするビジネス体と思ったらいいいわけです。そうすると彼らは、一回ぐらいならば昔のよしみでタダでいいかなということにはなりますが、一年間連続してくると、タダってわけにはいかないわけですよ。タダだと続かないし。お金を要します。校長がお金を集める。環境系の助成金っていうのはけっこうありますので、助成金のなんぼか出して、獲得していく。だいたいこの3年間で1年当たり100万、100万、50万で、250万ぐらい3年間で集めました。それを謝礼金とか材料費とか、いろんなものとして使っていく。それがないと続かないです、すぐ終わるはずですよ。一年間、ただで来るという人はあんまりいないだろうなと思います。

那覇市は英語教育の開発指定校になっていて、英語は総合的な学習の時間にやることができます。だいたい年間で30数時間やることができます。総合的な学習の時間は105時間ぐらいあるんです。そこから30何時間か減るので70時間ぐらいあるんですね。70時間全部環境に使っているかという、そうでもないんですね。かなりの時間使っている学年もあるし、半分ぐらい使って他のことをやっていたりとかも。これはそれぞれの学年によって違います。総合的な学習は70時間ある中でやっているということです。

最後に1つ、実は今年度、年が明けて2月に全国発表会というのを宇栄原小学校でやることに決めました、職員会議で決定しました。これは何をやるかということ、うちは授業の質を高めて子ども達の可能性をひらこうということで、授業研究というのをものすごくやっているんですね。年間4、50回やっていますけど。そういった積み重ねでどういう授業をやっているかという授業公開を全クラスでまずやる。環境教育は、3年、1、3、5年でその後環境教育の授業も公開する。芸術教育で子ども達の人間性みたいなものも成長させようと強く思っていますので、午後は、全校合唱をやって総合表現をやって、宮城教育大学の横須賀薫前学長が全面的にバックアップしてくれていますので、その人が講演をする。こういうようなプログラムを組んでいます。環境の授業もやるわけで、このワークショップでどのようなものがあるのか研究をみなさんでされて、他力本願みたいですが是非いろんな提言をしてほしいなと思うんですね。最終的には来年の2月の環境の授業公開の中で活かしていきたいなと思っております。こういう講座をつくってくださって非常に感謝しています。いい環境の授業をつくっていきなさいと思います。以上です。